

コロナ禍・子ども会は・・・

～ 育成・指導者養成実行委員会アンケート結果より ～

1月に育成・指導者養成実行委員会が作成・配布したアンケートの対象は各区子連及び単位会の役員さん。題して『令和2年度コロナ禍での活動記録』。集まった回答は約200枚。それを元に広報誌実行委員会では、一年に渡り不自由な活動を強いられた役員さん達の気持ちを追ってみました。



「こんなことが本当にあるの?という感じ。集まってなんぼなのに 集まっちゃいけないなんて」
(泉区)

「もし活動(会議や集まりなど)をしてクラスターが起きたら・・・という恐怖から実行することができなかった」「子ども同士会えば(集まれば)近づくなどと言っても無理」(栄区)

と、制限された活動を嘆く。100パーセントの会が例年どおりの活動ができなかった。それでも負けるわけにはいかない。ほとんどの会が文明の利器を活用した。



「電話やスマホをフルに使い、定例会の代わりとした」(鶴見区)
「役員同士でグループラインを作り、意識共有の徹底を図った」(旭区)
「密にならないよう公園で会議を行った」(栄区)



そこで全員で決めたこと。「イベントができないならフレゼントに変えた」(港北区・緑区他)
「大人数が集まらないで子どもが喜んでくれ方法を考えたら、お菓子を配ったり、くじ引きなら楽しいかなと企画。好評だった。今まで子ども会のイベントに参加したことがなかった子ども達にも全員に行き渡った」(都筑区)



「物を配ることは簡単だけれども、子ども達もストレス溜っていて、身体を動かすことも大事だ。」
(磯子区)

そこで・・・

「フェイスシールドを全員に配布し、年間を通して活用した」(南区)

年間を通じてフェイスシールドを活用。時間差をつけ、短時間で規模を縮小し、ラジオ体操、夏祭り、ハロウィン等を行ったという。他にも旭区の単位会では「なかよしビンゴゲーム」磯子区は「掲示板ラリー」、栄区は「オンライン土曜学校」等を共に感染症対策を工夫しながらイベントを開催した。



コロナ禍でのこの一年は大変だったけれども悪い事ばかりじゃなかった。
「会員へのフレゼントに地域の福祉施設の雑貨を選んだ。そこで、地域の繋がりを
持ち、支え合うことができた」(栄区)

「令和3年度から回覧版を廃止。代わりにSMSを活用する」(旭区)

「高齢者が多い地域なので、無理に活動はしなかった。コロナが落ち着いてからの活動のために予算を持ち越すことに決定」(緑区)

皆の思いはひとつ。コロナが早く収束しますように。そして、
「時代に合わせた子ども会の活動ができたら良いと感じました」(西区)



◆詳しいアンケート結果につきましては横浜市子連のホームページをご覧ください。

編集後記

今年度はコロナ禍で思うような活動ができなかった1年でした。このような中でも、書道展が無事開催できたことを感謝いたします。アンケートの中には工夫した活動がみられました。発想の転換をして、時代に合わせた活動を考えていかなければならないと感じました。それにしても、早い収束を願うばかりです。

